

事業報告書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進等の事業を行った。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査（平成16年度からの継続調査）

財団が管理する森林に関わる阿寒川水系における降雨量、河川の水位、河川水の土砂濃度等を調査した。

事業費

610,381円(予算額 650,000円)

(調査：山形大学農学部 菊池俊一准教授)

事業概要

現地調査

日程 平成25年 6月10、11日 河川水自動採取装置2箇所設置

(チクショベツ、キネタンベツ川調査区)

平成25年 6月～11月 水の採取等の現地調査実施

(2) 人材育成事業

1) 一歩園自然セミナー事業

阿寒湖のマリモは遺伝的特徴と幾つもの奇跡の重なりである地象的、気象的な環境特性の相互作用によって球状の塊

に発達し、大型生物としては他に例のない球状の集合を形成することで「植物界の神秘」と称されている。とりわけ、近年の DNA の分子進化に関する研究から、マリモは日本列島を起源としてヴェルム氷期前後に世界各地に伝播したことが得られており、特に北海道およびサハリンにおいては阿寒湖を起点として分散したものとの学説もあり、世界自然遺産登録への機運の高まりも見せている。これらをふまえてマリモに関する最新の知見と、その取り巻く環境を深く考察できるセミナー「森、川、そして湖・・・マリモが語る多様性に富む阿寒カルデラの不思議！」を実施した。

事業費 101,107円 (予算額 500,000円)

事業概要

日時 平成25年10月26日(土)

現地観察(第一部) 9時00分～12時20分

室内講演(第二部) 13時00分～14時45分

会場 現地観察(第一部) チュウルイ湾並びにポンチュウルイ川周辺森林

室内講演(第二部) 阿寒湖まりむ館/トーラサンペ・ユーカラ

参加者 36名

講師 若菜 勇(釧路市教育委員会マリモ研究室長/学芸員)

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行った。

事業費 1,000,000円 (予算額 1,000,000円)

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

(ア) ネイチャーウォッチング

阿寒湖のマリモが世界を代表する球状マリモの数少ない群生地であり、その学術的な価値が認められ特別天然記念物に指定され、保全が図られてきた。世界自然遺産登録への機運の高まりを見せている一方で、釧路市近郊の子供たちは実際にマリモに触れる機会や生息環境を見聞する機会が少ないことから、将来の道内の自然環境を担う子ども達にマリモの生態の不思議やその取り巻く環境を学び、感じるため実体験型自然観察会「超巨大マリモに会いに行こう！！～マリモを育む奇跡のフィールド阿寒湖探検～」を開催した。

事業費 306,997円 (予算額 375,000円)

事業概要

日時 平成25年7月13日(土) 10時00分～15時00分

室内講義 阿寒湖温泉まりむ館

現地観察 阿寒湖チュウレイ湾マリモ生息地周辺

参加者 45名(釧路市全域公募の小学4年生～小学6年生)

講師 若菜 勇氏(釧路市教育委員会マリモ研究室長/学芸員)

小野真由子氏(釧路市教育委員会マリモ研究室助手)

(イ) 森の楽校

当財団管理山林内において、北海道教育大学附属釧路小学校「自然環境教育プロジェクト」と連携し、同校小学2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に自然体験プログラム（延べ12回、参加者409名）並びに、津別町教育委員会生涯学習事業「アソビバつべつ！！」と連携した野生生物（エゾサンショウウオ、シマフクロウ、エゾシカ）と森林についてのプログラムを（延べ3回、参加者25名）実施した。

事業費

246,137円（予算額515,000円）

2) 前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する調査研究等の諸活動に対して助成を行うとともに、札幌市において、平成24年度の助成対象者の事業についての報告会を（公財）秋山記念生命科学振興財団と合同で開催した。

事業費

5,213,675円（予算額 6,256,000円）

事業概要

○平成25年度被助成者

①北広島森林ボランティア・メイプル

助成内容： 富ヶ岡の森環境整備・地域活性化第1期事業、助成額：320千円（北広島市）

②雨竜沼湿原を愛する会

助成内容： 北海道ラムサールネットワークと子どもラムサール交流会、助成額：210千円（雨竜町）

③NPO法人 藻岩山きのご観察会

助成内容：「藻岩山の森林と関わるきのこたち」

きのこ野生の花の本刊行、助成額：850千円（札幌市）

④堀内 仁

助成内容：「野生植物入門書 花も実も美しい！」の出版、助成額：650千円（鷹栖町）

⑤一般社団法人 湿原研究会

助成内容：十勝海岸湖沼群自然調査、助成額：500千円（大樹町）

⑥NPO法人 大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター

助成内容：南北海道・大沼湿地の野生生物ガイドブック

「沼のいきもの」の出版、助成額：470千円（七飯町）

⑦NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク

助成内容：「なまら！！サロベツ∞クラブ」

～次世代環境リーダー育成事業～、助成額：700千円（豊富町）

⑧栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会

助成内容：栗山町ハサンベツ里山地の水辺環境の復元と創出、助成額：470千円（栗山町）

※ 助成総額 4,170,000円

○審査経過

平成25年1月18日 募集広報

平成25年4月17日 審査委員会開催（応募件数：道内外からの団体・個人より計25件）

○審査委員 松江 昭夫 氏（委員長）
 鮫島 惇一郎氏（自然環境研究室主宰）
 阿部 永 氏（元北海道大学農学部教授）
 出江 俊夫 氏（環境省北海道地方環境事務所長）
 三木 靖 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

3) 森林利活用推進事業

財団森林内において財団の森林づくりへの理解と森林の利活用を積極的に推進するため、地域住民を対象とした「一步園の森 冬の森散策会」を開催した。

事業費	65,299円（前年度予算 230,000円）
事業概要	
日時	平成26年3月15日（土）10時00分～13時30分
現地観察	阿寒湖北側イベシベツ川並びに周辺森林（湖北の森／3115林班～3117林班）
参加者	19名

(4) 顕彰事業

前田一步園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一步園

賞及び副賞を贈呈した。尚、小中学生を主体とする団体を対象とした一步園ジュニア自然環境賞については、平成25年度については推薦案件が寄せられなかったことから不実行とした。

事業費 1,604,382円（予算額 2,080,000円）

事業概要

○前田一步園賞顕彰者

- ・村松 詮士（北見市）北見市教育委員会推薦

業績：オホーツク地方の蛾類を中心とした昆虫類の調査研究を積み重ね、日本未記録種や新分布地などを明らかにする傍ら、身近な昆虫や植物などの図鑑やテキストの作成に尽力。

- ・蜂谷 衛（弟子屈町）環境省釧路自然環境事務所推薦

業績：屈斜路湖の氷丘脈（御神渡り現象）を中心とした同地域の冬の自然について観察会などを実施する傍ら、長年にわたり屈斜路湖や摩周湖の結氷日の観測などの本分野の基礎的調査にも尽力。

○審査経過

平成25年 5月 9日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

平成25年 9月10日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞6件、一步園ジュニア自然環境賞0件）

平成25年11月15日 表彰式（出席者：27名（当財団役職員含む）、会場：ホテルガーデンパレス札幌）

○審査委員 松江 昭夫 氏（委員長）

鮫島 惇一郎氏（自然環境研究室主宰）

阿部 永 氏（元北海道大学農学部教授）
出江 俊夫 氏（環境省北海道地方環境事務所長）
三木 靖 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

（５）地域保全事業

１）山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具に対して助成を行った。

事業費（助成） 300,000円（予算額 300,000円）

（助成先：阿寒湖畔森林愛護組合）

２）エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔エコミュージアムセンターの活動に対して助成を行った。

事業費（助成） 800,000円（予算額 800,000円）

（助成先：阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営推進協議会）

（６）前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費 600,000円（予算額 1,200,000円）

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、平成25年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良等を実施した。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止、自然保護思想の普及等を図るため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。

事業費 2,316,800円（予算額 2,373,000円）

（請負等先：阿寒湖畔森林愛護組合、(有)前田一步園林業）

2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成24年度のエゾシカ被害総額は63億400万円（前年度比1億500万円減）と減少に転じてはいるが、エゾシカ問題は依然、深刻かつ予断を許さない状況にある。

このような中であって、財団森林も樹皮食いの危険にさらされている状況に変わりはないが、財団森林内に集まるエゾシカの数はこれまでの囲いワナによる捕獲の成果からか明らかに減少してきており、囲いワナや給餌、ネット巻きによって、被害も最小限に抑えることができている。

平成25年度も、前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった

森林被害防止対策を継続して実施した。囲いワナの設置数については、後述のエゾシカ出没数の減により、計画していた4基から1基減らし3基とした。

平成25年度の捕獲数は6頭（昨年同時期249頭）であった。これは、気象状況（釧路地方の記録的な小雪等の影響と推測）等により阿寒湖周辺に季節移動してくるエゾシカの数が極端に少なかった（餌の消費量、平成24年度1,605個に対し平成25年度は554個、からも推測される）ことが原因と推測する。

また、これらの対策とあわせてエゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて、大学と連携して調査を実施した。

事業費 6,749,476円（予算額11,000,000円）

（請負等先：(有)前田一步園林業）

・ 囲いワナ撤去事業

平成24年度に設置した4箇所の囲いワナの撤去

・ 給餌事業

給餌場25箇所の給餌

（平成25年4月1日から平成25年4月12日、平成26年1月6日から平成26年3月27日まで実施）

餌の使用量 ビートパルプ 554個（1個60kg「W35×L75×H35cm」）

・ 囲いワナによる捕獲事業

囲いワナ3箇所での捕獲（平成26年1月21日～平成26年3月28日まで実施）

捕獲回数 5回

捕獲頭数 6頭（オス 5頭 メス 1頭 幼 0頭）

3) 林道事業

既設の林道・作業道の補修・改良（作業道延長31m、作業道陥没箇所補修3箇所）を実施した。

事業費 477,040円（予算額1,000,000円）

（請負等先：（有）前田一步園林業）

4) 調査事業

林分構成の整備を図るため、3094、3095、3096林班の天然生林（調査対象面積249ha）、および3081、3083林班の人工林（調査対象面積51ha）において現況調査を行った。調査の結果、平成26年度の間伐材出材量を1,780m³（内訳については表1に掲載）と計画した。

また、調査の計画に使用する機器等（パソコン、ソフトウェア、航空写真）を購入した。

事業費 1,282,073円（予算額 1,800,000円）

（請負等先：（有）前田一步園林業）

調査作業実施林小班 3081-4、3083-3、3094-1～12、3095-1～13、3096-1～26 の各林小班

（表1） 平成26年度間伐材出材計画内訳

間伐の内容	出材量計画（m ³ ）
人工林間伐 針葉樹	250
人工林間伐 広葉樹	10
天然林間伐 針葉樹	1,500
天然林間伐 広葉樹	20
合計	1,780

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を実施した。

事業費 149,000円（予算額 500,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

(2) 人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭（500本植栽）に係る「苗木の購入」、「地拵え」、「下刈」を実施した。

事業費 319,000円（予算額 393,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

2) 人工林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成21年～23年度に植栽した人工林3.5haの下刈作業を実施した。

事業費 180,000円（予算額 207,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

作業実施林小班 3082-7,8,9、3083-20の各林小班

3) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林78.62haの除間伐、17.68haの枝打ち、ならびに作業路の開設（660m）を実施した。販売数量は、260m³（内訳：針葉樹230m³、広葉樹30m³）であった。

事業収入（素材販売収入） 1,082,000円（予算額 1,552,000円）

事業費 15,620,000円（予算額 16,466,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

作業実施林小班 除伐 : 3085-3, 7, 9, 11、3117-10, 11 の各林小班（53.54ha）

間伐 : 3083-10、3084-4, 5 の各林小班（25.08ha）

枝打ち : 3117-10, 11 の各林小班（17.68ha）

（3）天然生林改良事業

1）誘導造林事業

天然林の林分構成の充実を図るため、クロエゾマツの苗木（植栽本数20,000本、植栽面積20.02ha）の植栽を実施した。

事業費 8,722,000円（予算額 8,460,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

作業実施林小班 3106-1、3107-2 の各林小班

2）誘導造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成20年～24年度に植栽した誘導造林地の60.02haの下刈作業を実施した。

事業費 1,858,000円（予算額 1,680,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

作業実施林小班 3082-10、3089-20、3096-26、3106-6、3107-4、3107-5、3108-4、3112-4、3118-3 の各林小班

3) 広葉樹林改良事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、過熟木、衰弱木、傷害木及びエゾシカによる食害木等207.41haの整理伐を実施した。販売数量は、1,985.7m³（内訳：針葉樹1,668.8m³、広葉樹316.9m³）であった。

事業収入（素材販売収入） 9,788,249円（予算額 9,096,000円）

事業費 38,216,600円（予算額35,427,000円）

（請負等先：（有）前田一步園林業、釧高運輸（株））

作業実施林小班 3097-1,2、3104-1,2,3,9、3105-1～5 の各林小班

(4) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」を支出した。

事業費 908,083円（予算額 1,350,000円）

(5) その他業務

視察等の受入れ

教育機関、行政機関、各種団体からの視察要望に対応した。受入件数は37件、人数は404人であった。

おもな視察受け入れ内容

25年 4月 5日 1日 天然林施業〈コープさっぽろ〉（8名）

25年	6月	2日	1日	天然林施業〈釧路演劇集団〉（15名）
25年	6月	6日～		
		7日	2日	天然林施業〈筑波大学〉（3名）
25年	6月	13日	1日	天然林施業〈東京農業大学〉（11名）
25年	6月	18日	1日	天然林施業〈阿寒小学校、阿寒湖小学校〉（5名）
25年	6月	25日	1日	エゾシカ対策〈根釧西部森林管理署〉（4名）
25年	7月	10日	1日	天然林施業〈釧路市消防署〉（5名）
25年	7月	14日	1日	天然林施業〈鶴雅グループ〉（8名）
25年	7月	20日	1日	天然林施業〈阿寒湖小学校〉（10名）
25年	7月	24日	1日	天然林施業〈阿寒湖小学校〉（15名）
25年	7月	31日	1日	エゾシカ対策他〈福島県議会農林水産委員会〉（11名）
25年	8月	2日	1日	エゾシカ対策〈東京・日鉄住金建材〉（2名）
25年	8月	13日	1日	天然林施業〈北洋銀行〉（4名）
25年	8月	21日	1日	天然林施業他〈鹿児島県議会〉（12名）
25年	8月	27日	1日	エゾシカ対策他〈富士宮市議会〉（7名）
25年	8月	27日	1日	天然林施業他〈鶴雅グループ〉（18名）
25年	8月	28日	1日	天然林施業他〈釧路消防署〉（5名）
25年	8月	29日	1日	天然林施業他〈釧路市真砂町クラブ〉（5名）
25年	9月	10日	1日	天然林施業他〈東洋大学〉（20名）

25年	9月12日	1日	天然林施業他〈JICA〉(12名)
25年	9月12日	1日	天然林施業他〈釧路市真砂町クラブ〉(20名)
25年	10月5日	1日	天然林施業他〈ホイスコーレ札幌〉(20名)
25年	10月10日	1日	天然林施業〈道立林産試験場〉(5名)
25年	10月15日	1日	天然林施業〈バンビクラブ〉(15名)
25年	10月20日	1日	天然林施業他〈釧路地方林業会〉(40名)
25年	10月22日	1日	天然林施業他〈北海道教育大学釧路校〉(6名)
25年	10月23日	1日	天然林施業他〈マリモ幼稚園〉(36名)
25年	10月24日	1日	エゾシカ対策〈阿寒湖小学校〉(40名)
25年	10月28日	1日	天然林施業他〈釧路市消防署〉(5名)
25年	10月30日	1日	天然林施業他〈阿寒小学校〉(30名)
25年	11月20日	1日	エゾシカ対策〈環境省〉(4名)
26年	1月16日	1日	エゾシカ対策〈東京農業大学〉(4名)
26年	2月13日	1日	エゾシカ対策〈積水樹脂(株)〉(1名)
26年	2月28日	1日	エゾシカ対策〈北海道森林管理局〉(11名)
26年	3月17日	1日	エゾシカ対策〈住友林業(株)〉(8名)
26年	3月18日	1日	エゾシカ対策〈釧路市農林課〉(4名)
26年	3月20日	1日	エゾシカ対策〈北海道庁森林整備課〉(2名)

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

(1) 土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、空地（阿寒ビューホテル跡地など）の緑化事業やゲート及び看板などの設置を行った。

事業費 2,641,021円（予算額 2,800,000円）

(2) 土地貸付

前年度に引き続き、表2のとおり土地の貸付を行った。

なお、有償貸付の新規契約件数1件は 桐良一氏 他3名（敷地面積 318㎡）によるものである。

(表2) 土地貸付等状況一覧

契約区分	平成25年3月現在		平成26年3月現在		備 考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	209件	520,020㎡	210件	520,338㎡	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	19件	346,115㎡	19件	346,115㎡	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会他
計	228件	866,135㎡	229件	866,453㎡	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充整備と安定供給体制をより一層強化することを目的に、非常警報システムの整備等を計画的に推進するとともに、温泉需要者との情報交換を行う事業を行った。

(1) 前田一步園財団温泉推進連絡会議

温泉事業をより一層円滑に推進するため、地域の関係者と情報交換を行った。

事業費 5,797円 (予算額 30,000円)

事業概要 推進連絡会議の開催

実施日 平成25年 6月14日 情報交換 (阿寒湖まりむ館2階会議室)

(2) 温泉供給施設の整備

1) 源泉非常時警報システム整備事業

事故等による揚湯停止状態を早期に感知・復旧するため、自動通報システムを新2号源泉、神社源泉に整備した。

事業費 820,000円 (予算額 900,000円)

2) 揚湯ポンプの拡充事業 (揚湯管の購入)

各源泉に共通する予備の温泉揚湯管 (4m/本) × 15本を購入し、温泉の安定供給の確保に努めた。

事業費 870,000円 (予算額 900,000円)

3) 温泉計量器の交換整備事業

温泉計量器（流量計）を交換整備し、温泉供給量を把握することにより、温泉の安定供給の確保に努めた。

事業費

736,000円（予算額 750,000円）

(3) 源泉及び温泉供給設備の管理

平成26年3月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本（内、稼働中12本、非常時用予備1本、観測井2本）である。前年度に引き続き、これら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努めた。

(4) 温泉供給

前年度に引き続き、表3のとおり温泉供給を行う。

(表3) 温泉供給状況一覧

供給区分	平成25年3月現在		平成26年3月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	67件	312本	67件	312本	
無償供給	3件	4本	3件	4本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3本		3本	暖房等財団諸施設
計	70件	319本	70件	319本	

5. 財団創立30周年記念事業

平成22年度・23年度の2年間、NPO阿寒観光協会まちづくり推進機構や行政、旅館組合等の地域の関係者を中心とした検討会で財団創立30周年の記念事業について検討を進めてきた。その結果、①コンサートの開催、②森林をテーマにした講演会やシンポジウムの開催、③教育やレクリエーション等、財団の森林を活用した多様な活動ができるよう、施設の整備や機会の増大（「森の学校（仮称）」構想）に取り組むべきであるとの方向性が示された。

平成24年度は「森の学校（仮称）構想」について事業の目指すべき方向性等について検討専門委員会を設置し専門的に検討した。その結果、30周年記念事業のひとつとして、森林の教育的な活用に関するセミナーを実施するよう提言があった。

これらを受け、財団創立30周年記念事業として、記念講演「森と生活」・セミナー「スウェーデンから学ぶアウトドア環境教育セミナー」を開催するとともに、一步園の歴史を振り返り、これから一步園が目指すべき姿を語り合う「一步園のこれからを語る夕べ」を開催した。これらは、平成25年10月4日（金）～6日（日）にかけ実施した。

また、この10年間に実施した事業を記録した記念誌「30年の歩み」を発行した。

(1) 「一步園のこれからを語る夕べ」実施事業

関係行政機関、地元関連組織、財団関係者（理事・監事・評議員・顧問・職員）参加の記念講演・座談会、および記念パーティーを阿寒湖温泉にて実施した。

実施日：平成25年10月4日（金） 16:00～20:00

実施場所：鶴雅ウイングス飛翔館（記念講演・座談会）、鶴雅ウイングス本館（記念パーティー）

講師：金子 太郎 氏（前田一步園財団元理事、経済評論家）

参加人数：62名

事業費（会計区分：法人会計） 2,114,665円（予算額 2,590,000円）

(2) 記念講演「森と生活」実施事業

“森の恵みを受けながら森とともに豊かに生活するということとはどのようなことか”について、スウェーデン・日本そしてアイヌの人達の事例を学ぶ講演会を阿寒湖温泉にて実施した。

実 施 日：平成25年10月5日（土） 12：50～16：00

実 施 場 所：阿寒湖アイヌシアター 「イコロ」

講 師：浜田 久美子 氏（作家）、本田 優子 氏（札幌大学副学長）

参加人数：約160名

事業費（会計区分：実施事業等会計） 772,576円（予算額 1,525,000円）

(3) セミナー「スウェーデンから学ぶアウトドア環境教育セミナー」実施事業

教育関係者や森林を教育的に活用することに関心を持つ方々向けに、森林の教育的活用に関するセミナーを実施した。

実 施 日：平成25年10月6日（日） 9：00～17：00

実 施 場 所：阿寒湖まりむ館会議室、財団庭園

講 師：アンディッシュ・シェパンスキー教授

（スウェーデン王立リンショーピング大学 アウトドア環境教育研究所所長）

参加人数：40名

（大学教員4名、中学校教員2名、小学校教員9名、幼稚園教員3名、大学生13名、官公庁2名、一般7名）

事業費（会計区分：実施事業等会計） 2,605,399円（予算額 2,000,000円）

(4) 記念誌発行事業

平成15年度から平成24年度までの10年間の財団事業実績を記録した記念誌を発行した。

事業費（会計区分：法人会計） 1,150,000円（予算額 1,000,000円）

成果品：財団創立30周年記念誌

「30年の歩み データで見る前田一步園財団の10年2003—2012」

製作会社：㈱アイワード

発行部数：500冊

主な寄贈先：森林・自然環境・温泉等の関係関連行政・関連機関、地元関連組織、歴代財団役職員等の300箇所